

茨城県自衛隊家族会（城里町）朝霞駐屯地見学



令和7年7月3日（木）、茨城県自衛隊家族会（城里町会長・石井 勝）は、陸上自衛隊朝霞駐屯地を訪問しました。当日は外気温度33℃という真夏日の中、陸上自衛隊中央音楽隊の合奏練習を見学し、移動中には広報担当者が車中で駐屯地の概要説明を分かりやすく実施してくれました。その後、隊員食堂で美味しいご飯を食べ、会員からは「毎日と言わず週に一度はこちらでご飯が食べたい。」と大変好評でした。午後からは振武臺（しんぶだい）記念館を訪問し勤務員の方が同行ガイドをしながら、朝霞駐屯地や郷土の歴史について紹介してくれました。

今回の研修を通じて、われわれ家族会も、自衛隊がその即応性と精強性を発揮できる環境づくりを支え、国民の安心・安全に寄与していきたいと感じました。

防衛協会青年部会での防衛講話

自衛隊茨城地方協力本部（本部長・栗秋1空佐）は令和7年7月5日（土）、土浦市のホテルで行われた茨城県防衛協会青年部会総会で狩野平左衛門岳也会長の依頼を受け、防衛講話を実施した。

栗秋1空佐は、「最近の自衛隊の取り組み等」をテーマに「航空自衛隊 宇宙領域把握開始」、「募集状況と茨城地本の取り組み」、「災害派遣と予備自衛官」について講話した。

「募集状況と茨城地本の取り組み」では、募集対象者ソースの変化を紹介し、これまでの学校訪問等の取り組みだけではなく通信制の学校も視野に入れ、都道府県の枠を超えた活動が必要だと説明した。また、新しい学び「ラーケーション」（ラーニングとケーションを組み合わせた造語）の活用を紹介し、自衛隊のイベントや基地見学への参加を期待していると説明した。

「災害派遣と予備自衛官」では、人材確保のアイデアとして消防団員と予備自衛官の相乗効果を紹介し、地元で何かあれば消防団員として、日本で何かあれば予備自衛官として活動できるとアピールした。

参加した防衛協会青年部会会長は「我々青年部は創立以来21年目を迎えました。創立時のメンバーのほとんどが60歳を超え青年部とは言えないので来年から若返りを図り、未来の自衛官を育てていくことに合わせ、同年代同士、腹を割って日本のことを語り合える友人形成に全力で取り組みます。是非ともご支援ご協力をお願いいたします。」と決意を表した。

自衛隊茨城地方協力本部は、今後も協力諸団体と、連携を強化し、自衛隊に対する国民の理解促進と募集態勢の強化を図っていく。

